

第65回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

HB023CE	高校	生物	山梨県
学校名		山梨県立笛吹高等学校	
研究作品タイトル		御坂山地スズラン群生地 の 保全	
研究者氏名 (共同の場合はグループ)		米倉 祐真、稲葉 美咲、花田 玲臣、須田 美羽、仁平 樹里、上田 ローレン	
指導教諭氏名		亀井 忠文	

【動機】

2019年笛吹市より「芦川源流域のスズラン群生地に群落が衰退している部分が見られる。原因究明と保全策を提案して欲しい」旨の依頼を受けた。そこで、スズランの好む環境要因解明、生育旺盛区と衰退区の群落解析、保護上重要な植物種の把握、研究成果の地域社会への還元を目的とした。

【方法】

環境要因の解明：旺盛区と衰退区の照度・土壌水分・pHの比較解析、植生学的比較解析：両区の植生学的調査による群落区分とその比較解析、保護上重要な植物種の把握：現地踏査により絶滅危惧種・植物地理学的に重要な植物種の検出、群生地の四季を特徴づける植物種の把握、研究成果の地域還元。

【結果】

スズランは木漏れ日程度の明るさと土壌水分の多い場所を好む、植生学的に生育旺盛区と衰退区間で、はっきり群落区分できた。群落衰退指標種を多数検出できた、絶滅危惧植物やフォッサマグナ要素の植物を確認した、2021年10月現在約250種を確認した、地域で成果発表の機会があり反響があった。

【まとめ】

群生地は豊かな植物相と動物たちとの複雑な関係で成り立っている。したがって、群生地の保全はただスズランのみに注目するのではなく、生物多様性の保全という考え方が重要である。

【展望】

群生地の保全について有益な資料を提供できたと自負している。現に私たちの提言が動植物採集を禁ずる警告看板の設置に結びついた。今後も掛け替えのない群生地保全に対する発信を積極的に行っていきたい。

